

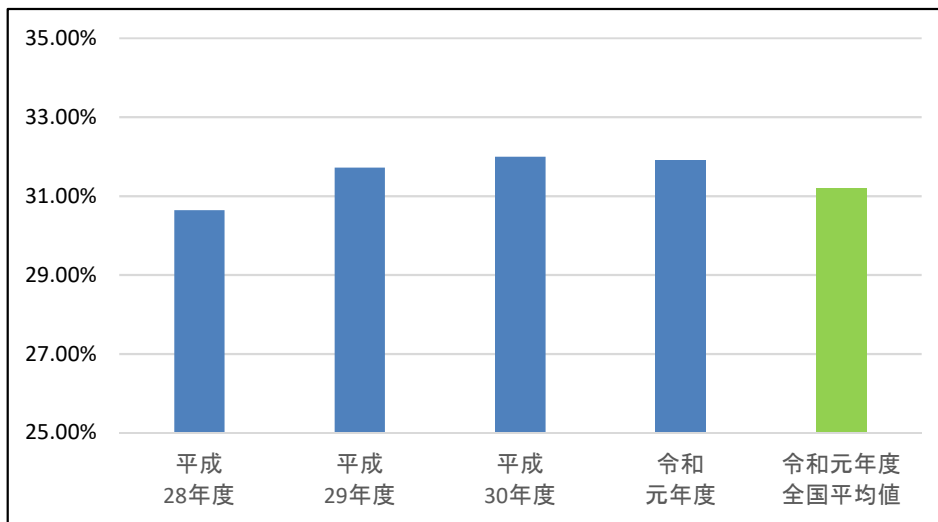
70.一般病棟の重症度、医療・看護必要度

項目の解説

これは、一般病棟における重症度、医療・看護必要度に基づく、重症患者の基準を満たす割合を示す指標です。急性期の入院医療における患者の状態に応じた医療及び看護の提供量の必要性を反映する指標になります。重症患者の割合が高いことは、急性期医療において、より医療ニーズ(手術、処置等)や手厚い看護(看護の提供量)の必要性が高い患者を多く受け入れていることを表します。つまり、この指標が高い医療機関は急性期医療に貢献していると考えられます。

当院の実績

平成 28年度	平成 29年度	平成 30年度	令和 元年度	令和元年度 全国平均値
30.64%	31.72%	32.00%	31.90%	31.20%



全国平均値は国立大学附属病院の平均値です。

定義

一般病棟の重症度、医療・看護必要度(%)を平均したものです。

以下の式で算出します。

該当患者延数÷一般病棟在院患者延数

平成30年度診療報酬改定により、重症度、医療・看護必要度ⅠとⅡに評価方法が分かれており、平成30年度及び令和元年度はⅠに該当します。



九州大学病院

KYUSHU UNIVERSITY HOSPITAL